

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

筑西市 解説

組	番	氏名	
---	---	----	--

番号	解 説	答
1	市内の全域に多くの品種の桜が植栽されており、名所も多く、広く市民に親しまれています。公式には定められていませんが、菊とならんで日本の国を象徴する花の一つにもなっています。	2
2	今回、剣道競技は下館総合体育館で行われる予定です。昭和49年・第29回の前回大会では下館中学校体育館で行われましたが、成年男子優勝、少年男子準優勝というすばらしい成績を収めました。	4
3	益鳥であり、幸せを呼ぶといわれているツバメは、春に海を渡ってやってきて、田植え期の田園を飛び交い、軒先などに巣を作り子育てをする親近感を感じる鳥です。躍動感があり、筑西市の将来像にふさわしい鳥です。	2
4	お米以外にも、きゅうりや梨、そば、こだますいかなど県内トップクラスの農作物がたくさんあります。	1
5	「ちっくん」は帽子で筑波山と河川に育まれた緑豊かな筑西市を表現し、この肥沃な大地で育った「梨」や「いちご」、そして筑西市の花「コスモス」を配置しています。また、からだは全国有数の生産量を誇る「こだますいか」、そして、百万本の八重ひまわりで彩られるひまわりフェスティバルのひまわりのポシットを身につけています。	3
6	青空と緑の筑波山を背景に、濃い黄色のひまわり畑が一面に広がる「あけのひまわりフェスティバル」では、八重ひまわりなど約100万本のひまわりが楽しめます。	4
7	筑西市の人口は年々減り続け、10万人を割ってしまう心配が出てきました。人口10万人を守る取り組みを考えております。	2
8	2007年(平成19年)1月30日、市町村合併により筑西市、高梁市として誕生したことを契機に、両市民間の交歓を基礎として、将来にわたり友好親善を深め、両市が末永く相携えて住みよい都市を建設し、生生(せいせい)発展を期するため、友好都市協約を再締結しました。	3
9	葦間山古墳は前方後円形の墳墓で、徳持の小貝川左岸にあります。現在、前方部は畑地となっており、後円部には針葉樹が茂っています。新治国造支配領域では最大の古墳です。	2
10	板谷波山は、筑西市(旧下館町)に生まれ、陶芸家として初の文化勲章を受章しました。代表作品の中でも「彩磁禽果文花瓶(さいじきんかもんかびん)」と「葆光彩磁珍果文花瓶(ほうこうさいじちんかもんかびん)」が国宝・重要文化財(美術品)になっています。	3
11	常陸国の水谷(みずのや)氏は、藤原秀郷の流れをくむ一族です。戦国時代に下館城を拠点に、水谷蟠龍齋(みずのやばんりゅうさい)という人が活躍しました。	1
12	SL真岡号は「C11 325」と4、「C12 66」の2つあります。1.「C58 363」は秩父鉄道の「パレオエクスプレス」、2.「C11 207」は東武鉄道の「大樹(だいじゅ)」、3.「C61 20」はJR東日本の「みなかみ」です。	4
13	五郎助山ではターザンロープやハンモックなどがあり、オリエンテーリングや植物観察などの自然を通してさまざまな体験ができます。	4
14	青木繁は、今の福岡県久留米市に生まれましたが、1905年(明治38年)頃、現在の筑西市に滞在していたといわれています。「大穴牟知命」は、「古事記」上巻にある「おこなむちのみこと(大穴牟知命・大国主命)」の受難の物語を題材としたもので、久留米市の石橋美術館に所蔵されています。	2
15	種類によって収穫できる時期が異なり、幸水(こうすい)、豊水(ほうすい)、秋月(あきづき)、新高(にいたか)、にっこり等がある。ヘタが黒ずんでいない新鮮なもの、皮の色つやが良く、硬いものが美味しいようです。	3
16	大西勲は茨城県筑西市在住の漆芸家。「髹漆(きゅうしつ)」という、漆をぬっては研ぐ作業を繰り返し、漆そのものの美しさを引き出す技法で、作品を制作する。市民栄誉賞は2003年(平成15年)10月16日に決定しました。	1
17	平成神輿は、重さ2トン、実際にもまれる(毎年担がれる)神輿として日本で最重量を誇る神輿です。幅は約1.4メートル、高さが3.5メートル、担ぐ棒の長さは縦7メートル、横6.4メートルにも及びます。夏に行われる「下館祇園祭」の名物となっています。	4
18	五行川(勤行川)は関東平野北部を北から南へと流れる一級河川。(一級河川とは、私たちの暮らしを守り、産業を発展させるうえで特に重要なかわりをもっている水系のなかの河川のうち、国が管理している河川)市街地を流れる勤行川では、11月上旬から12月下旬まで、川岸や橋の上から遡上する鮭の魚影や産卵の様子を手軽に見ることができます。	2
19	母子島遊水地では、年に2回、筑波山山頂から太陽が昇る「ダイヤモンド筑波」を見ることができます。撮影のチャンスは10月28日前後と2月14日前後になっています。	3
20	小栗判官は、小栗満重の子であり、小栗城の城主・小栗助重(おぐりすけしげ)がモデルになっているといわれています。毎年12月に行われる「小栗判官まつり」では、馬に乗った小栗判官と御所車に乗った照手姫が、侍女や武者にふんした人々を引き連れ、新治駅前通りを練り歩きます。	1
21	人面付土器が出土した女方遺跡(おざかたいせき)は、鬼怒川左岸台地上の女方地内にあります。この遺跡は、東日本で初めて弥生時代中期の再葬墓(弥生時代の墓制で、遺体をいったん白骨化させた後、その骨を壺などに入れなおして再び埋葬した墓のこと)の存在が明らかにされたことでも知られています。	2
22	安倍晴明は、平安時代において天文や占いなどの技術に優れた陰陽師(おんみょうじ)でした。「晴明伝記」によると、生まれてから5~6歳頃まで猫島に居たといわれ、その後、都で活躍したそうです。	4
23	アルテリオは2003年(平成15年)に開館しました。アルテはスペイン語で「芸術文化」、それにトリオ(しもだて地域交流センター、しもだて美術館、市民協働まちづくりサロンの「3」課)を組み合わせました。	1
24	筑西市と栃木県真岡市にまたがって「7つ」の羽黒神社が点在しています。下岡崎羽黒神社、竹島神社、大根田羽黒神社(真岡市)、口戸羽黒神社、上羽黒神社、外塚羽黒神社、そしておなじみの下館中心部にある下羽黒神社になります。	3
25	江戸時代中期に建てられた古民家を移築復元した「筑西市立農業資料館」には、昔の農機具や生活道具が数多く展示され、昔の生活の様子を知ることができます。	4